

令和6年度8020公募研究事業 研究報告書抄録（採択番号 24-2-06）

研究課題：糖尿病をもつ人の歯科受療行動と糖尿病診療ガイドライン改定の影響

ービッグデータを活用した実態把握及び受診につながる要因の分析

研究者名：佐藤美寿々^{1,2)}，石丸美穂³⁾，大野幸子⁴⁾，岩崎正則¹⁾，康永秀生²⁾

所 属：1)北海道大学大学院歯学研究院予防歯科学教室 2)東京大学大学院医学研究科臨床疫学・経済学分野 3)東京科学大学大学院医歯学総合研究科歯科公衆衛生学分野 4)東京大学大学院医学系研究科イートロス医学講座

【背景・目的】

8020 運動の推進において、糖尿病を有する者はハイリスク・ハイベネフィット集団と考えられる。歯周病と糖尿病には双方向の関連があり、歯周治療による血糖コントロール改善効果も報告されていることから、日本糖尿病学会は 2019 年に診療ガイドラインを改訂し、歯周治療の推奨度を引き上げた。本研究では、診療ガイドライン改訂が糖尿病患者の歯科受療行動に与えた影響を明らかにするとともに、受診行動に関連する因子を新規・既存患者別に分析することを目的とした。

【方法】

JMDC Claims Database を用いて、2017～2021 年度に 90 日以内の間隔で血糖降下薬を処方された成人を対象とした。対象者は新規患者（前年度に処方歴なし）と既存患者（前年度以前より処方歴あり）に分類し、歯科受診状況（未受診、歯周治療以外、歯周治療）を年度別・属性別に記述した。加えて、医療機関種別、診療科、HbA1c 値、咀嚼状態に関する健診質問票の回答を併せて分析した。

【結果】

研究対象は新規患者 72,190 人、既存患者 609,710 人であった。歯科受診率は、新規・既存ともにおおむね 48%、歯周治療受診率は約 40%で推移し、ガイドライン改訂後も大きな変化は認められなかった。また、HbA1c が高い群ほど歯科未受診者の割合が高く、HbA1c が 9.0 以上の新規患者では 60%を超えていた。また、咀嚼機能に問題があると回答した群でも歯科未受診割合が高かった。医療機関や診療科の種別による差は小さかった。

【結論】

2019 年の診療ガイドライン改訂は、糖尿病患者の歯科受診行動に大きな変化をもたらさなかった。新規・既存患者間で大きな違いは認めなかった。とくに HbA1c が高い新規患者や、咀嚼困難を有する集団では歯科未受診割合が高く、重点的な介入対象としての対応が求められる。今後は内科診療の場面での歯科受診勧奨の仕組みづくりや、多様な集団への教育的介入の強化が課題であると考ええる。